

平成31年度 一人一人の確かな学力のために

6年

	学年の目標	1学期末の児童の様子	3学期末の児童の様子
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えをもち、伝えられる児童を目指します。そのために、自分の考えをノートに記録する時間を確保してから伝える時間をとったり、小グループで話し合い活動を行ったりします。また、大人数の前で理由や根拠を添えて話せるように指導します。</li> <li>日常生活にも気を配り、相手や目的に応じて書いたり、話したりすることができるように指導します。</li> <li>漢字の定着を図るために、ミニテストを週1回程度実施し、間違い直しをする習慣を身に付けさせます。学年末テストで90点を合格として、8割以上の児童が合格できることを目指します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを記録することに自信がもてない児童が3割程度見られます。そのうちの半数は、小グループで話し合い友達の意見を聞くことで、自分の意見をもつことができます。</li> <li>話を聞いていないことが原因で自分で考える機会を逃し、自信の無さから友達と話していない児童が4割程度います。話し手の顔を見て話を最後まで聞き、まずは自分で考えてから友達と話し合うことができるよう、指導を続けます。</li> <li>漢字ミニテスト1回目で合格する人数は、5割に留まりました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>少人数グループでの話し合い活動は、活発に行っています。大人数の前では、原稿があったり、練習をしたりしていると伝えることができるようになっています。</li> <li>最後まで話を聞くことができる児童は8割ほどです。中学校進学にむけて、今後も話を聞くことの大切さを伝えていきます。</li> <li>3学期は、まだまとめのテストが行われていませんが、小テストに向けて自分で計画を立て練習に取り組んでいます。また、今学期中に1年生から6年生のまとめのテストにも取り組むことで、6年間の既習漢字の習得を確実にします。</li> </ul>
算数・基本	<ul style="list-style-type: none"> <li>全学年の学習内容を確実に習得している児童を目指します。そのために、週4回の補習タイムを活用して計算ドリルや5年生の学習内容の東京ベーシックドリルに繰り返し取り組みます。またその習得率を学期ごとに診断テストで判断し、児童自ら課題を把握してベーシックドリルに取り組めるようにします。</li> <li>ワークテストや練習問題にて、間違えた原因を追究し、再度問題に取り組めば解決し、学習内容を確実に習得できるようにします。</li> <li>毎日の学習をしっかりと身に付けるために、宿題やドリルの提出状況を自覚させ最後までやり遂げられるように支援します。</li> <li>東京2020オリンピックドリル活用し、学習内容の定着を図ります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>診断テストでは、5年生の学習内容ですが、正答率8割以上を達成した児童は4月で15%、7月で25%に留まっています。理解が不十分な単元を自覚させ、補習タイムで引き続き東京ベーシックドリルに取り組めます。</li> <li>テストや練習問題の結果を見て満足して、終わりにしてしまう児童が少なくありません。途中式などから、どこで間違えたのか追及し、同じ間違えをしないよう指導していきます。</li> <li>東京2020オリンピックドリルは、今後発展的な内容として扱い、活用していきます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>補習タイムでは、自らの課題を把握し、取り組みました。3学期は、当該学年(6年)の練習プリントに取り組み、習得を確認しています。中学校に向けて、分からないところや悩んだところは、積極的に質問できるよう伝えます。</li> <li>テストを振り返る時間を設けることで、間違えた問題は、原因を追究して再度取り組むという習慣が身に付いてきました。</li> <li>まだ最後のページまで取り組んでいます。授業や補習の時間に活用しています。卒業するまでにBのドリルを全て終えることができるようにしていきます。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>読書に親しみ、6学年の読書目標10000ページを達成できる児童を目指します。そのために、いつも手元にマイブックを持たせ、朝読書の時間だけでなく、隙間の時間に読書に取り組めるようにします。また、宿題にも読書を取り入れ、読書の時間を確保します。さらに、日頃から読んだ本を読書貯金箱に記録させ、自らの読書量を確認できるようにします。</li> <li>国語の単元ごとに国語辞典を使って言葉の意味や使い方を調べ、語彙力を伸ばします。また、日頃から分からない言葉を調べる習慣を身に付けさせます。</li> <li>話の要点を落とさず聞き、自分の考えと比較しながら相手の話を聞くことができるよう、朝会後に聞き取り小テストを行ったり、朝の会のスピーチで自分の考えを伝えたりして、話す・聞く力を伸ばします。</li> <li>文字を入力したり、画像をソフトウェアに取り込んだりして資料を作成する方法を指導し、全員が資料を作成できるようにします。また、プレゼンテーションソフトを活用して効果的な資料を作成したり、プレゼンテーションをしたりすることができるように指導します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読書に親しむ児童は増えました。また、朝読書の時間を活用し、調べ学習を行っている児童も多いです。ですが、自分の読書した記録をつけ、自らの読書量を確認している児童は、5割程度です。記録する習慣が欠くよう指導をします。</li> <li>国語辞典を学校置きにして、分からない言葉をその場ですぐ調べている児童は文章表現力が高まっています。また新聞記事の読み取りでも、国語辞典を引き言葉を調べ、言葉に親しんでいる様子もあります。</li> <li>話の聞き方について助言すると、要点を聞き落とさないように聞こえようとする意識が高まりますが、3割の児童は持続しません。目的意識をもって学習に臨めるよう、めあてを明らかにした授業を行います。</li> <li>今後学習のまとめなどを通してプレゼンテーションソフトを活用していきます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝読書やすきまの時間に読書に取り組むことができているが、2月中旬で、1万ページを達成した児童は、1割でした。</li> <li>卒業文集を書いたり、招待状を書いたりする際に進んで辞書を活用していました。自ら、辞書を使って調べる習慣が付いている児童は、2割程度です。</li> <li>大事なことを聞き落とさず話を聞くよう意識が持続できる児童は8割ほどになりました。</li> <li>全員が、6年間の学びや思いでプレゼンテーションソフトを使い、まとめをしています。写真の挿入や文字の効果なども考えて、完成を目指しているところです。</li> </ul>
思考力・表現力・判断力	<ul style="list-style-type: none"> <li>興味・関心をもったことや学習内容に関係あることを自分の力で調べ解決できる児童を目指します。そのために、読書科や総合的な学習の時間を中心に調べ学習などの探究活動を行う機会を設けます。</li> <li>【ノート指導】</li> <li>問題解決の筋道が分かるノート作りが行えるように指導していきます。ノートを定期的に評価して、モデルとなるノートを提示していきます。</li> <li>自ら課題を見出し、見直しをもって解決することのできる児童を目指します。そのために、授業の始めにめあてを明確にし、自分の考えを言葉や文章で表現できるようにします。また、授業の最後には、まとめ、感想を書いて振り返ることで、自分の達成度を確認したり、次時の課題をもったりする時間を確保します。</li> <li>自分の考えをもち、友達の意見を聞いて、考えを深めることができるようになります。そのために自分の考えをもたせてから話し合いを行うようにします。また、友達の意見を聞いて考えが変わったり、友達の意見に付け加えて話している児童を称賛し、児童がお互いに学び合う力が身に付くようになります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問いをもち、本で調べる習慣を身に付けてきています。調べたことに対して自分の意見をもつことが課題である児童もいるので、思考ツールを使って指導を続けます。</li> <li>モデルとなるノートを積極的に提示し、半数程度の児童は分かりやすいノート作りを意識しています。後で見返したときに学習したことが復習できるようノート指導をしていきます。</li> <li>課題を見出す習慣は身に付けてきています。また、授業のめあてに対してまとめが出来る児童は6割ほどです。</li> <li>「～さんと同じで」と「～の部分は一緒なのですが、～は違う考えで」など友達と自分の意見を比較しながら、自分の考え深めることが出来る児童は7割程度まで増えました。互いに学び合うことが出来る授業づくりを引き続き目指します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本で調べるスキルは、ほぼ全員が身に付きました。自分の興味・関心を広げ、主体的に調べ学習を行い、自主学習ノートなどにまとめることができるようになりました。</li> <li>自分の考えや学習の過程を工夫してまとめることができる児童が6割程度です。中学校にむけてのノートづくりを意識できる児童も増えました。4割の児童も引き続き指導していきます。</li> <li>授業のめあてを明確にし、毎時間授業のわかったことやまとめを振り返ることで、達成感を得られる児童が増えました。</li> <li>自分の意見を押し通すだけではなく、友達の意見も聞き、考えを深めることができる児童が8割まで増えました。</li> </ul>
学習習慣	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習時間を毎日90分(15分×6年生)取り組むことを目指します。そのために漢字・音読・読書・自主学習・算数の宿題を毎日課し、宿題の提出を確認します。また、自主学習ノートを活用し、自らの課題を考えて取り組むことができるよう声を掛けます。模範になる児童の取り組みやノートを掲示したり、「鹿骨東小家庭学習の手引き」を活用して指導したりすることで自己の課題を見つけ取り組むことができるようになります。</li> <li>次時の授業の準備の習慣化を目指します。できている児童をほめたり、グループで声を掛け合ったりさせることで100%の定着を図ります。</li> <li>既習事項の定着を図るために、宿題提出率100%を目指し、自主学習に進んで取り組めるようにします。そのために、家庭学習週間で自主学習を行う機会を設定して、段階的に自主学習の取り組み方やその内容を指導していきます。</li> <li>大事なことを聞き漏らさずに最後まで話を聞くことができる児童を目指します。日々の授業の中で話し合いの場を積極的に設け相手の話を聞く習慣が身に付くよう指導をします。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>90分の家庭学習を達成出来た児童は7割ほどです。自主学習ノートでは自分自身の課題をもち、取り組むことが出来る児童が増えました。家庭学習期間だけでなく、日常的に90分間集中して学習が出来るよう、生活リズムを整える必要があります。</li> <li>次時の授業の準備が習慣化している児童は3割ほどです。昨年度からの課題ですので、見直しをもって生活できるよう引き続き指導を続けます。</li> <li>宿題提出率は、8割ほどです。引き続きご家庭のご協力をよろしくお願ひします。</li> <li>日頃から相手の話を最後まで聞くよう指導を続けます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習期間中は、毎日90分家庭学習に取り組んでいます。期間が終わっても生活リズムを崩さず、課題に取り組めるよう引き続き指導します。ご家庭でお声かけをお願いします。</li> <li>次時の授業の準備が習慣化している児童は3割程度にとどまっています。中学校生活にむけて、見直しをもち準備することの大切さを伝えていきます。</li> <li>宿題提出率は9割ほどです。1割の児童も中学校に向けて、計画を立てて学習することの大切さを引き続き指導します。</li> <li>話を聞く姿勢が持続できるよう指導を続けます。</li> </ul>